

□講演 日本靴医学会井口傑前理事長

## 「靴は足と大地のインターフェース。 自分の感性で靴を選びましょう」

第27回日本靴医学会学術集会・市民公開講座で行われた日本靴医学会前理事長井口傑氏の講演「ハッピーライフのための足と靴」について、その概要を紹介する。



動物が生きていくうえで最も大切な欲求は動くということ。動くことで環境を変え、個を維持し種を維持しています。

人間は2本の足で動きます。じゃあ足って何でしょう？ 端折って言うと、医者の目から見ますと人間は常時直立2足歩行をしています。それは300万年から600万年前に人類が獲得したものだといわれています。

ちなみに両生類または肺魚といわれるものが陸に上がったの

は3億年前といわれています。つまり足というものを得てから3億年、2足歩行となったのが300万年前とすると、その時間は100倍なのです。直立2足歩行というものは、いまだ完成したものではないということです。

ではなぜ人間は直立2足歩行ができるのか。動物が4本足もしくは前足と後足でやっていること、それが人間はコンパクトに足のなかに入っているのです。人間の足の前足部と後足部、この2つをつないでいるものが実は背骨にあたるものなのです。小さな足のなかに前足と後足と骨格が入っている。だからこそ2本足で倒れずに立っていられるのです。

では、靴とはなんでしょう

「ハッピーライフのための足と靴」  
をテーマに講演を行った井口傑氏



か？ 結論から言うと、靴は足と大地のインターフェースということです。その大きな働きは足を保護する、足の機能を向上させるという2つです。

足をどう使うか、どう楽しむのか。死ぬ時までにもうこれ以上歩けないというまで歩いた人が賢い人ではないでしょうか。

どういう靴が良い靴なのか。自分に良い靴というのは、自分というものを考えなければ手に入りません。すべての人に良い靴などあるわけがありません。考え方方が違えば、楽しみ方も違う。だから自分の靴をお選びに